

2006年3月31日

「三利源の開示」の決定について

明治安田生命保険相互会社（社長 松尾 憲治）は、業務改善計画および「明治安田再生プログラム」に基づき「社会に開かれた会社」の実現に向けた取組みの一環として、「三利源の開示」を決定いたしました。

今後とも「お客さまを大切にする会社」の実現に向け、業務改善計画および「明治安田再生プログラム」に基づく実効性の高い取組みを推進してまいります。

記

1. 三利源開示の趣旨について

- ・ 「社会に開かれた会社」の実現に向けた取組みの一環として、2005年度決算より「三利源の開示」を決定いたしました。
- ・ 生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表す指標として「基礎利益」「逆ざや」が定着していますが、ご契約者をはじめとして、広く一般の方に対して、期間損益の増減要因等を含め当社の経営状況をよりご理解いただくために、基礎利益の内訳項目として三利源の状況を自主的に開示するものです。
- ・ お客さまから、信頼回復に向けて経営情報の積極的開示を求めるとご要望も多く、それを踏まえたものです。

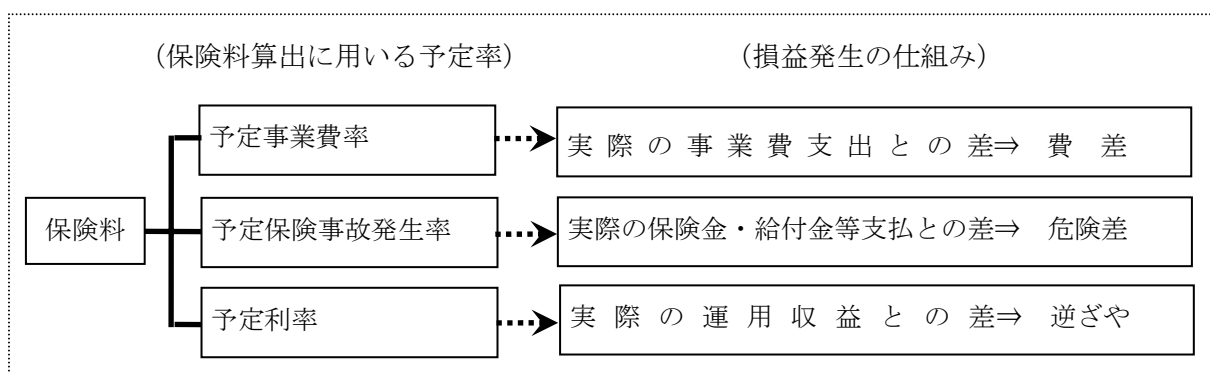
2. 三利源の開示モデルについて

- ・ 以下の形式で開示を行なう予定です。

	2005年度	
		前年差
基礎利益 ①		
費差		
危険差		
逆ざや		
キャピタル損益 ②		
臨時損益 ③		
経常利益 ④ (=①+②+③)		
特別損益・法人税等 ⑤		
当期末処分剰余金 ⑥ (=④+⑤)		

<用語の解説>

- ・ 費 差：保険料算出時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出との差額
- ・ 危険差：保険料算出時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額
- ・ 逆ざや：保険料算出時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額（なお、現在は会社全体で、実際の運用収益が予定した運用収益を下回る、いわゆる「逆ざや」状態にあります）



以 上